

まえがき

本資料は、平成 22 年度行政対応特別研究「アジア、太平洋諸国における経済連携に関連した貿易構造等の分析」として行った研究の成果をとりまとめたものである。

アジア太平洋地域は、世界経済の成長センターとして長期にわたって貿易の拡大が続いている。この地域の貿易構造と動向、そしてわが国との貿易関係を正しく理解することは、適切な貿易戦略を考える上で重要になっている。この研究資料は同地域の貿易の姿を統計データの整理から描いたものである。

あわせて 2010 年 1 月のインドと ASEAN との間の FTA 協定発効で一応の完成を見た ASEAN+1 型 FTA ネットワークに着目し、地域内諸国の貿易戦略を知るための材料として、このネットワークを構成する FTA における各国の自由化除外品目（いわゆる上位センシティブ品目）の整理も行った。

本資料は 2 部構成になっている。第 I 部は全体編であり、第 1 章はアジア太平洋地域全体の貿易構造を、貿易結合度、輸出競争力、貿易特化度、シェア効果などの分析手法を用いて概観した。第 2 章では ASEAN+1 型 FTA の上位センシティブ品目の設定状況を整理し、自由化レベルの高いオーストラリア・ニュージーランドとの FTA から、自由化度の低いインドとの FTA まで、ASEAN が締結している FTA の自由化レベルには相当な差のあることを明らかにした。

第 II 部は各国編であり、第 3 章から第 10 章にわたって、中国、韓国、インドネシア、タイ、ベトナム、インド、オーストラリア、アメリカの 8 カ国を章別に分析している。各章では、当該国とアジア太平洋諸国との貿易構造を概観するとともに、競争力指数の変化や、2 国間の貿易構造の整理を中心に分析を行った。また上位センシティブ品目の設定状況の整理から導かれる各国の FTA 戦略についても検討した。

本資料がこの地域の貿易、特に農産物の貿易に関心のある読者のご参考になることを願っている。

平成 23 年 3 月

農林水産政策研究所
アジア・太平洋チーム